

イレに向け整備すべきと考へるが、見解を伺う。

高薄町長

トイレの洋式化は、予算が許す限り順次取り組みたい。今ある公共施設で約4割は洋式化しているが、残りも改善していきたい。

三澤教育委員長

町内小・中学校のトイレの洋式化率は、校舎部分で20・9%となっており、十勝管内平均は28%のため、若干平均を下回っている。和式に慣れていないため、休み時間に洋式トイレの順番を待つ子どもはいるが、保育所や幼稚園の段階から和式に慣れるよう教えている。また、入学時にも使用法を指導しているため、トイレにいけないという子どもはいない。

しかし、学校支援委員会や保護者から、臭いの改善とあわせて洋式トイレの増設を望む声があるため、子どものストレスを少なくして、学習に集中できるように、整備する方向で努力していく。

民生委員、児童委員の活動と町の関わり

原 紀夫議員

本町の民生委員協議会には民生委員32名、主任児童委員2名が在籍し、民生委員法や児童福祉法に定められた職務を、地域における相談や支援ボランティアで取り進めている。職務を適切に行つには、常に担当地域内の実情把握が重要であるが、個人のプライベートや対象者が自ら申し出ることを躊躇する傾向にあると考へる。

指導的立場の町として同委員の調査活動をどのように把握しているのか。昨年度の申し出件数及び今後の活動の問題点の解消に向けての対策を伺う。

高薄町長

民生委員には、地域住民の福祉の向上に協力いただいているが、市街地では大変多くの戸数を抱え、負担が多いところもある。国

で定数が決まっており、民生委員協議会で担当分けをしている状況である。昨年度の申し出件数は861件であり、毎年その程度の件数で推移している。

プライベートの關係上、同委員も十分配慮し、同協議会のなかで様々な事例を出して問題解決にあたり、場合によっては委員相互の協力に対応している。これから、より一層、町内会長とも連携するよう、同協議会へ申し上げていく。

アスベスト使用実態の再調査の必要性はないか

奥秋康子議員

平成17年度の調査の際、石綿の使用は一般住民が出入りしないボイラー室など数箇所であり、飛散の心配はないとしたが、この4月に新たな箇所が発見された。

①当時の調査・確認方法に不備はなかったか。

②当時、飛散のおそれがない未処置の箇所についての定期的な点検は。
③一般住民が立ち入らない箇所でも働く職員に不安はないか。
④一度きりの調査ではなく、再調査の必要性は。

高薄町長

①②当時は、設計図面及び目視等で調査を実施し、数箇所の施設で、アスベストを含む建材が使用されていたが、気中濃度の測定結果では空気中の浮遊はなく、安全は確認されていた。その後定期的に建材表面の劣化状態の点検と気中濃度検査を実施し、監視してきている。

当時の調査確認方法と対策に問題はないと考へられる。
③町民や職員の安全を第一に、今後も点検・調査を行っていく。
④今回のように、施設の改修工事等の際には、天井裏など困り込みされている場合についても、慎重に点検し対応していく。

万が一、町内で発生したときの口蹄疫対策は

奥秋康子議員

宮崎県で発生した口蹄疫は急速に感染が拡大、未だ終息の兆しが見えず深刻な状況である。本町農業の販売額のうち、酪農と畜産が示す割合は70%を超えており、ウエイトが大きい。万が一、発生したときに備えて、対応の流れや初動体制の確認について伺う。

①町内における予防体制と情報提供は。
②初動体制の対応の流れや役割分担は。
③殺処分となった家畜を埋却する候補地の把握、防疫作業に伴つ重機の確保、農家のメンタルケアの相談窓口の設置は。
④その後の対応等は。

高薄町長

①宮崎県で口蹄疫が発生した翌日に農協と協議し、公共施設等へ消毒マット、畜産農家へは消石灰を配布した。予防に対する情報は農協からチラシを随時配布し提供している。
②町家畜伝染病自衛防疫組合を中心に關係機関と一丸となり対応する。更に、対策本部も設置する。
③家畜を埋却する土地の確保は町として協力していく。また、重機の確保も建設業協会と協議を行っている。メンタルケアの相談窓口は対策本部と同時に設置する考へている。
④町経済に及ぼす影響が大きいいため、国・道の支援のほか、町としても支援をしていく。



防疫対策として、畜産農家へ消石灰を配布。